

友好

ヨ-ハオ

北海道日中経済友好協会会報
「友好」第37号
令和4年5月15日発行

一般社団法人北海道日中経済友好協会
札幌市東区北43条東1丁目6-10 明哲ビル
TEL 011-299-1885 FAX 299-1886

日中国交正常化50周年。絆を胸に新たな歩みを

北海道日中経済友好協会 会長 木村輝美

田中角栄首相と周恩来総理が共同声明に調印して日本と中国の国交が回復したのが、1972年9月29日。この半世紀、隣り合う国として多くの分野で交流を展開してきた両国は、まさに切っても切れないパートナーとしての関係を築き上げてきました。

あらゆる面で目覚ましい発展を遂げ、地球規模で存在感を高める中国。経済面でもその影響力は大きく、日本の貿易相手国の第一位であり、そのシェアは拡大を続けています。

北海道経済にとっても中国は重要な取引相手。人や物の流れを大きく変えた新型コロナウイルスの状況が見通せない現在、当協会の会員企業の皆さまもその対応に日々ご苦労を重ねていることと拝察しております。とりわけ中国人観光客の来日が途絶えて以来、道内の観光業とその周りを支える企業の状況には暗澹たる思いを禁じえず、一日も早い収束を願うばかりです。

*

北京での冬季オリンピック・パラリンピックが無事に終了しました。東京五輪に続いて無観客の会場が多かったのは残念ですが、中国政府はこれを機にウィンタースポーツの普及に力を入れています。元々中国ではスキー人口がそれほど多くなかったこともあり、各地に立派なスキー場が次々と誕生しているようです。中国との友好を推進する立場ではあるものの、雪質に関しては北海道のスキー場の優位性を譲るわけにはいきません。

中国のスキーヤーがあこがれの地として北海道のスキー場に大挙して訪れる日が実現するの



木村輝美会長

も遠い話ではないでしょう。

新幹線が延伸されると、札幌～倶知安の乗車時間は30分を切る予定。札幌に泊まってニセコでスキー、ニセコに泊まって札幌で買い物など、観光客の行動の幅が広がることが予想されます。

*

当協会の事業の一つに中国の経済視察があります。2年間訪中できない現状のなかで、毎年各地を訪ねて“中国の今”を目で見て肌で感じる視察研修の大切さを、今さらのように強く感じております。

国交正常化50周年の今年こそ、両国ともにコロナの厄災から解放され、相互訪問を再開し、同じ空気を吸いながら交流を重ねなければなりません。コロナ禍は諸悪の根源とも言えますが、互いに相手を思う気持ちはかえって強まったのではないのでしょうか。その思いを胸に新たな半世紀への歩みを進めましょう。

大連の著しい発展を肌で感じた10年

(株)メディア・マジック

執行役員（グローバルビジネス事業部担当） 里 見 翼

はじめに

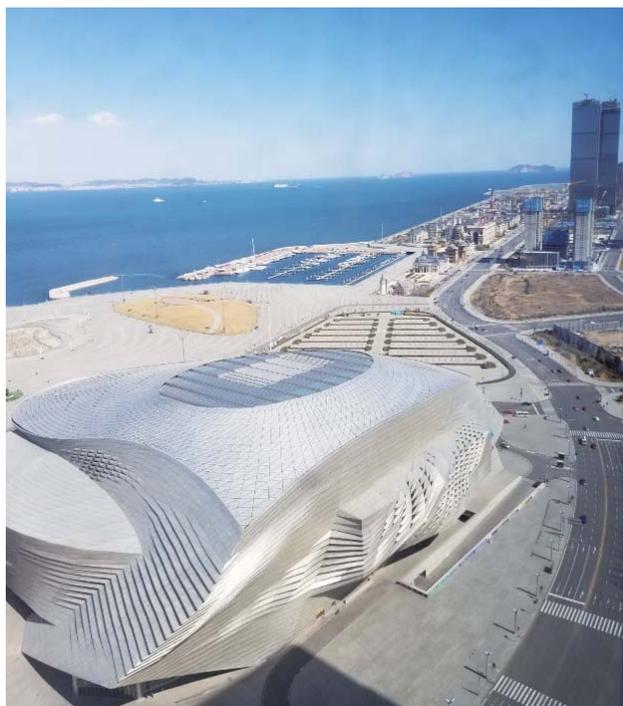
私は2011年8月より遼寧省大連市へ渡航し、IT企業で中国人の同僚たちと日本企業向けにソフトウェア開発(オフショア開発)を行ってきました。

2020年1月には新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて日本へと帰国しましたが、現在リモートワークで仕事を継続しています。

気がつけば10年近い時間を大連で過ごしてきましたが、その日々の中でも強く中国の発展や技術の進歩を感じていました。

港湾地区の再開発

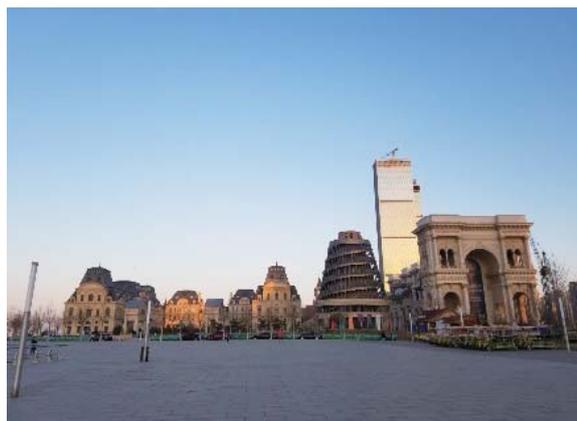
大連は1890年代にロシア人によって築かれた街だと言われています。そのため、市内のあちこちに風情あふれる町並みが広がっています。



大規模な再開発で一変した大連の港湾地区

中でも街の中心部にある大連駅の北側には、旧ロシア人街と呼ばれるロシア風の建築物が多く残っています。そして、中山広場の周りには旧植民地時代の建築物が多く、日本風情街と呼ばれる場所に日本式の旧住居が残っています。

また、海の玄関口として長年活躍してきた大連港のある港湾地区においても近年再開発が進み、モダンな高層ビルが立ち並ぶ地区に様変わりしました。



中国とは思えない景観が出現している

大連市では2000年代後半から数年に1度の間隔でダボス会議などの世界経済フォーラムが行われており、港湾地区ではそういった世界経済フォーラムが多く催されることも影響しているかもしれません。

港湾地区の中でも特に目を引くのが、海沿いにあるベネチアの町並みを再現したエリアです。ヨーロッパ風の建物とゴンドラが浮かぶ海沿いの運河を歩くと、潮風が気持ち良く開放感があります。また夜になるとライトアップが行われ、幻想的な雰囲気につつまれるため、若者がSNS向けの写真を撮るには格好の人気スポットとなっています。



運河のあるベネチアの町並みが再現されている

大連のさらなる発展

先にご紹介した港湾地区以外でも、大連では様々な場所で今なお開発が進行中です。私が大連へとやってきた当初、公共交通はバスと路面電車が主で、当時はバスで1時間ほどかけて通勤していました。当時の大連市の人口は600万人ほどで通勤・帰宅ラッシュ時の混み合いはなかなか酷いものだったと記憶しております。

それが、2010年代半ばに地下鉄が開通し、また大連市内から旅順方面へ橋が建設されたことにより、通勤・帰宅時の混み合いが緩和され、市民の生活が一気に便利になりました。

また、2021年には大連北側の金石灘で京都をイメージした商業施設もオープンしました。

京都風の建物で食事やショッピングが楽しめるテーマパークのような施設で、プロジェクトには日本企業も参画しています。オープン時点で大きな話題を呼んだ施設には、多くの方が詰めかけ、大変賑わったのですが、残念ながら諸事情により一週間ほどで営業停止になってしまいました。その後、様々な国の要素を取り入れ



京都の風情が感じられるテーマパーク

た形に変更を行い、施設は営業再開しました。

2024年頃には大連に新空港をオープンする計画もあるそうで、今後の都市発展にはさらなる期待が高まります。

最後に

2020年からの新型コロナウイルス流行により、現在も引き続き日本と中国の往来は難しい状況となっています。しかし、感染が収束した折には、以前のように北海道日中経済友好協会の皆様と中国を訪れ、日々発展する都市の姿を目にできることを今からとても楽しみにしております。



里見翼さん。北海道日中経済友好協会の視察で訪れた甘肅省敦煌郊外の鳴沙山でラクダツアーを体験（2019年8月）

令和3年度 中国私費留学生支援奨学金授与事業

奨学金の支給対象は北海道内で学ぶ中国人の私費留学生2人で、公募により選考し、1人につき40万円（前期20万円、後期20万円）の奨学金を支給しました。

対象大学

北海道大学／北海道教育大学／札幌国際大学／小樽商科大学／札幌学院大学／北海学園大学／北海道科学大学／酪農学園大学／苫小牧駒澤大学／北海道文教大学

令和3年度奨学生

ア ス ハン 阿 斯 罕（内モンゴル自治区）北海道教育大学大学院

テイエン イン 田 影（内モンゴル自治区）酪農学園大学大学院

奨学生レポート

学びの道を究め 北海道から羽ばたく



ア ス ハン
阿 斯 罕

内モンゴル自治区出身

北海道教育大学旭川校大学院

この度は、一般社団法人北海道日中経済友好協会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。

大学院2年間で、モンゴル音楽の教育における在り方について研究することを通して、民族音楽と学習者との距離を近づける方策を探ることを目的に、モンゴルの音楽という広いテーマの中から、モンゴル民族の心のシンボルであり、代表的な楽

器でもある「馬頭琴」(モンゴル語でモリンホール)と特殊な発声法を伴う伝統的な歌唱法「ホーミー」に焦点を当て、モンゴルの音楽について整理し、教育における在り方について研究を行いました。

本研究の基本方針に基づいて、モンゴル音楽が進化と変化をしなければならない大きな時期に突入しているということを学校教育現場に伝え、異国(日本)で実施されている出前授業の導入を促し、出前授業がもたらす効果と収穫をより丁寧に説明し、音楽授業から学校教育へとモンゴル教育に新たな1ページを開き、本研究がきっかけに更に研究を重ね、より具体的で、よりシンプルで、より馴染みやすい、より地域の現状に適した教育の在

り方と出前授業の在り方を研究することを今後の目標にしながら研究を続けます。

今後の課題は、一人で実践する場合の解説の進行方法、伝統的な民族音楽を前衛的・主流的・多様な様々な音楽と結合させる方法に関する検討を進め、東～中央アジアに位置するモンゴルの音楽は、それに関わる先人たちが汗水と努力をもって創造したものである。我々の世代は、そのバトンを受けて、一層多くの人々にモンゴルの音楽に関する啓発を行っていくことを大切にしたいと考える。

モンゴル音楽の教材化に向けた本研究に更なる磨きをかけ、モンゴル音楽が直面している学校教育の立場から見える現状と課題の改善のための提案を行っていく。

この奨学金制度による皆様からのご支援のおかげで、私は研究活動に全力を注ぐことができます。ご支援いただいているすべての方に心からお礼申し上げます。今後もより一層の努力をして、社会貢献できるように励んでまいります。



ティエン イン
田 影

内モンゴル自治区出身
酪農学園大学大学院

1. 学業の状況

まごころ奨学金を給付されて以降、家庭の経済的負担が軽減されてとても嬉しく、学費や教材費などの心配が少なく本当に感謝しています。自分の研究に専念し、積極的に学会と勉強会に参加し、学業に励む事が出来ました。この経験から日本人

と友達になって、コミュニケーション能力を身につけて、課外活動に積極的に参加することで充実のある生活を体験することができました。奨学金を活用して自分が色々な事に挑戦できる環境にある事を嬉しく思います。

2. 生活の状況

新型コロナウイルスの影響で1年間アルバイトしていないです。現在生活費のため、今年の1月からコンビニでアルバイトしています。でも、博士研究に専念するために週1回だけシフトに入っている状況です。

3. 将来の計画

ここで、日中経済友好協会に心より感謝しております。中国の留学生の夢を応援して、苦しい生活を手伝ったと同時に国際平和の推進と国際親善のために優秀な人材を育てると思います。日本留学を終えた後は、できれば日本の大学か研究所に就職したいです。もしできなかつたら中国に帰国し、大学の教師になりたいと思っています。世界の環境科学や社会の発展に貢献したいと思います。また、研究と講義を両立させ、自らが日本で学んだ環境科学技術の知識をより多くの学生たちに伝え、日中両国の友好関係のために努力したいと考えております。将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な人になりたいと思います。ありがとうございました。

窓口を通じてもたらされる情報を得ることが、今の私たちに課せられた役割と認識しております。

隠元禪師とインゲン豆

北海道日中経済友好協会 副会長 舟本秀男

数年に一度・数十年に一度という異常気象が毎年世界を襲い、農産物に多大な被害をもたらしています。このような中、北海道は地理的な優位性と試験場や農業者の一体となった努力により被害を最小に抑え、昨年度も一部の農産物（馬鈴薯の小型化）を除いて順調な生産を果たしております。

北海道の多くの農産物はわが国生産高の上位を占めており、2018年の全国収穫量でみまますと、道内産が占める比率は、馬鈴薯77%、タマネギ62%、かぼちゃ41%などとなっています。その中でも圧倒的な生産比率を誇っているのが「インゲン豆」で、2015年の統計では北海道が全生産量の97.3%を占めています。道内生産の約70%が「JAきたみらい（北見市）」で生産されています。

インゲン豆は炭水化物・タンパク質やビタミン・ミネラルが豊富に含まれる一方、脂質はほとんど含まれておらず、健康維持やダイエットに最適な食品と言われています。長い歴史の中で、日本人の健康維持に貢献してきた食品の一つといえましょう。

インゲン豆の名は、江戸時代初期（1654年）長崎に来航し、禅宗の普及や多くの文化を日本に広めた高僧・隠元禪師の名に由来しています。

令和2年度に発行された北海道日中経済友好協会機関誌「友好」で、約1300年前の奈良時代に日本に渡来。10年間奈良東大寺（大仏殿）に居を構え、聖武天皇や多くの僧侶に仏教の神髄

を教え、布教に当たった唐の高僧「鑑真」を取り上げました。

「鑑真」以降も室町時代に至るまで、中国からの渡来僧が仏教を日本に広めました。しかし室町幕府中期以降、渡来は激減し、江戸時代になると鎖国体制になり、外国からの文化を以前のように受け入れることが困難になっていきました。

このような時、長崎の「崇福寺」の住職に空席が生じ、招聘したのが隠元禪師です。隠元禪師は中国福建省（ふっけんしょう）生まれで、時代が明から清に交代する頃、黄檗山（おうばくさん）萬福寺（まんぷくじ）の住職を務めた高僧です。

慈悲深く、高い学識と芸術性を併せ持ち、当時の禅宗界のリーダーであったと言われていきます。1654年に長崎に来航すると、隠元禪師の徳を慕って数千人の僧や信者が集まったとのことでした。

当初、日本での滞在は3年間という約束で、本国からの帰国要請もありましたが、多くの僧や信者たちの強い要請で日本に止まり続けます。1658年に時の将軍徳川家綱と会見し、皇族、各地の大名、多くの商人が競って隠元に帰依しました。

1660年、将軍より山城国宇治郡大和田（京都府宇治市）に寺院を賜ると、その名を故郷・中国・福建省に因み「黄檗山（おうばくざん）萬福寺（まんぷくじ）」としました。82歳で亡くなるま

で隠元禅師は「黄檗文化」と呼ばれる当時の中国文化を日本に広め、また多くの文物を江戸時代初期日本にもたらしました。「黄檗文化」は日本に吸収され、また様々な面で日中の文化交流が盛んになっていきます。

隠元禅師が紹介した文化の内、食文化では隠元によってもたらされた「インゲン豆」が挙げられ、今も身近な食材になっています。

従来、日本人の食事は一人一人ずつ用意されたお膳が一般的でしたが、黄檗文化により四角いテーブルが紹介され、複数人がテーブルを囲んで食事する習慣が一般化しました。ゴマ豆腐も隠元禅師がもたらしたものです。

それまでの日本のお茶は支配階級や有力者に限られ、抹茶が使われていました。隠元禅師は「煎茶」を日本に紹介し、庶民の間でもお茶を楽しむ習慣が誕生。その他にも、「原稿用紙」「明朝体の印刷」「隠元頭巾」「袈裟」「黄檗絵画」「黄檗彫刻」「木魚」「建築」等など、生活や宗教に関わる多くの分野で「黄檗文化」が取り入れられていきました。

隠元禅師が来日するまで、寺院は幕府の出先機関のような性格を強め、宗教性・戒律は形骸化していました。隠元禅師は戒律を重視した厳格な寺院運営を行い、日本宗教界全体の活性化を推し進めています。

約1300年前に来日した鑑真和尚、550年前の隠元禅師と、共に亡くなるまで日本で暮らし、多くの宗教文化、生活様式を日本に紹介し、今も我々の生活の中に多くの教えや文化が根付いています。

本年は「日中国交正常化50年」を迎える年に当たります。当時の田中角栄首相と中国の周恩



隠元隆琦像 喜多元規筆【重文】

来首相は、北京で共同声明に署名し、「恒久的な平和友好関係を確立する」ことで一致しました。この声明の目指すところは今後共変わることなく続いていかなければなりません。

隣国同士という地理的關係、2000年を超えて交流してきた文化的關係、そして今や相互に最大の貿易相手国に至っている経済的關係。2月の北京オリンピック・パラリンピックでは、北海道出身のアスリートの活躍。スポーツ面でも日中の關係は深く関わっています。

民間である私たちが「平和友好關係」を、より活発に発展させることは大いに可能なことでありましょう。

本年、「日中国交正常化50年」の交流事業として、京都の万福寺が所蔵する隠元禅師の毛髮が使われた隠元像を「里帰り」させる計画もあるとのこと。

札幌市北京事務所が 閉鎖

札幌市は2022年3月末日にて札幌市北京事務所を閉鎖いたしました。

当事務所は2003年11月に開設して以来、市内企業の対中国ビジネスの展開支援と観光誘致、文化交流に取り組み、現地ネットワークの構築や情報発信と収集に努めてまいりました。今後はこれまでに蓄積したネットワーク等を活用し、札幌市内から支援活動を継続してまいります。

皆様方におかれましては、これまで多大なるご支援とご協力を頂きましたことに深く感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

札幌市北京事務所長 小室 匡



小室所長（左から2人目）と
スタッフのみなさん。お疲れ様でした

北海道 日中経済友好協会 〈年間事業〉

1. 中国経済セミナー
2. 中国経済経済視察研修
3. 中国人留学生への支援事業
 - ・ 私費留学生への奨学金授与
 - ・ 留学生セミナー
 - ・ 留学生支援チャリティゴルフコンペ
4. 交流事業
 - ・ 中国総領事館と「交流の夕べ」
 - ・ 新年交礼会
 - ・ 会員交流会
5. 会報「友好」の発行

会員数の増強にご協力を！

